

令和2年度 第2回新潟市食育推進会議

日 時：令和2年12月24日（木）午後2時～4時

会 場：新潟市食育・花育センター2階 講座室

司 会	<p>これより、次第に従って議事に入りたいと思います。</p> <p>会長の村山委員は会長席へご移動をお願いいたします。ここからは村山会長より議事を進行していただきます。よろしくお願いいたします</p>
会 長	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>今回、新潟市の食育推進計画の次期計画について皆様方よりご議論いただくことになっておりますので、各方面より、その方の方面からご意見をいただければと思います。会議の終了は、およそ2時間後の4時を目指しております。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議を進行いたします。まず、議題（1）国「第4次食育推進基本計画」について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>食と花の推進課の春川です。説明させていただきます。</p> <p>現在、農林水産省で、来年3月の公表に向けて作成中の第4次食育推進基本計画について骨子案の提示がありましたので、概要のみ簡単にご説明させていただきます。</p> <p>資料1と2を使いますが、こちらの資料は12月11日に開催されました第3回食育推進評価専門委員会の農林水産省の会議の資料となっております。</p> <p>資料1、計画の作成に向けた基本的考え方という資料をご覧ください。</p> <p>2ページ目に今後の開催予定と書いてありますが、国として骨子案の提示がありまして、1月下旬に基本計画の本文案の提示、パブリックコメントを行う予定となっております。3月に基本計画の本文案が提示されまして、3月中に基本計画の決定という流れで進んでいく予定です。</p> <p>3ページ目を見ていただくと、第3次の計画における進捗状況が書いてあります。青く囲まれているところです。見づらいのですが、③番「地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やす」という項目と、⑥番「中学校における学校給食の実施率」、⑫番「食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む食品企業の登録数」、⑱番「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合」、⑳番「食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する若い世代の割合」、この五つの目標値が現時点で目標に達成しております。</p> <p>そのほかに、新潟市の場合は、食育への関心や朝食の欠食、栄養バランスに配慮した食生活の実践、食事マナーの継承などについては目標未達成という現状です。</p> <p>続いて4ページです。こういった現状を踏まえて、第4次計画の目標に対する考え方です。第4次計画においては、最近の食育をめぐる状況を踏まえまして、生涯をつうじた健康や持続可能な食を支える食育を推進するため、16の目標、24の目標値、第3次の計画よりも目標値を増加して設定しております。</p> <p>第4次計画では、子どもたちに地域や食に関する理解を増進させ、自慢の地場産物の活用等の食育を一体的に推進することが重要であるとしまして、新たに栄養教諭による</p>

地場産物を活用した食に関する指導の平均取組み回数という目標を追加しております。また、健康寿命の延伸を目指す健康日本 21 の趣旨を踏まえて、幅広い食育関係者における取組みを促すこととして、食塩摂取量の平均値、野菜摂取量の平均値、果物摂取量 100 グラム未満の者の割合を新たに追加しております。また、持続可能な食を支える食育の推進のために、産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合、環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合、郷土料理や伝統料理を月 1 回以上食べている人の割合という項目も追加されております。

5 ページ目に、第 4 次計画の目標案が示されております。今お話したように、5 番の学校給食における地場産物を活用した取組み等を増やす、6 番の食塩や野菜、果物摂取量に関する項目、11 番の産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす、12 番、環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす、14 番②郷土料理や伝統料理を月 1 回以上食べている人の割合というところが新しく追加された目標となっております。

6 ページ以降に、目標の考え方について書いてあります。学校給食における地場産物等の活用における目標については、第 3 次計画では子どもに対する指導に関する目標がないということで、地場産物を使っていることを児童生徒が気づいていない可能性もあるということから、栄養教諭における地場産物を活用した食に関する指導の平均取組み回数を 12 回以上というところで設定されております。

7 ページ目は、地場産物の使用割合についての考え方です。現在、食材数ベースでの目標となっておりますが、食材数ベースのケースですと現場の努力が反映されづらく、金額ベースの目標とすることが適当とされておまして、全国一律の数値目標とすることは、地場産物の生産量が地域間格差が大きいので適当ではないということで、各都道府県が創意工夫を発揮し、令和元年度の現行以上の推進を目指すような目標とするように設定されております。令和元年度におきます地場産物の使用割合は、維持向上した都道府県の割合を 90 パーセント以上にするという目標になっております。

8 ページ、9 ページには、食塩と野菜と果物摂取量に関する考え方を示しております。

10 ページ以降の参考資料にも細かく記載してあります。お時間の都合で省かせていただきますが、国としては、第 4 次計画におきまして、子どもから高齢者まで、生涯をつうじた食育の推進、持続可能な食、新たな日常やデジタル化への対応を重点として策定を進めているところです。

続いて、資料 2 をご覧ください。資料 1 の考えに基づきまして、農林水産省から示されました第 4 次の計画骨子案です。

こちらの計画策定にあたっては、都道府県や政令指定都市の意見等をできるだけ反映していきたい旨の連絡がありまして、委員の皆様の中でも事前にこちらをお読みになられて何かご意見とかご疑問等のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ後ほどお伺いさせていただきたいと思っております。それをまた事務局で整理して、農林水産省へお返ししたいと思っております。

中身としましては、まず「はじめに」というところで、日本における食の現状や課題がまとめてあります。その下、第 1 の「食育推進に関する施策についての基本的な方針」

や、2ページ目の「重点事項」については、先ほどもお話しましたとおり、生涯をつうじた心身の健康を支える食育の推進、2番目に持続可能な食を支える食育の推進、3番目に新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進の3点を掲げております。3ページ目に食育の推進に当たっての目標が書いてありますが、先ほども見ていただきましたが(5)、(6)、(11)、(12)、(14)の辺りで新たに目標が追加されております。

第3章「食育の総合的な促進に関する事項」としましては、まず、家庭における食育におきましては、基本的な生活習慣の形成への意識を高めて、生涯にわたって切れ目なく、心身の健康の増進と豊かな人間性を育む基盤づくりを行うことが重要であるとしております。その後の基本的な生活習慣の形成であったり、妊産婦や乳幼児に対する食育、在宅時間を活用した食育の推進ということがあげられています。

2番目、学校、保育所等における食育の推進におきましては、子どもへの食育を進めていく場として大きな役割を担っておりますので、栄養教諭、栄養士等を中核として、関係者が連携して食育を体系的、継続的に実施することが必要とされております。こちらでは、学校給食の充実であったり、就学前の子供に対する食育の推進ということがあげられております。

3番目、地域における食育の推進では、近年、さまざまな家族の状況や暮らしの多様化によりまして、健全な食生活の実現が困難な立場にある者も存在していることから、地域における食育を推進し、支援するという一方で、こども食堂や従業員の健康づくり、企業との連携についても言及されております。

7ページ目の4番、食育推進運動では、全国各地でさまざまな関係者がそれぞれの立場から食育に取り組み、国民的な広がりを持つ運動として推進をしています。新潟市でも、第4次計画のキーワードとして掲げています「明るく楽しく」というところなのですけれども、国でも明るく楽しく多様な食育推進運動を引き続き全国的に展開していくことが必要としております。こちらでは、新たな日常やデジタル化に対応した食育、SNSなどの活用やウェブ上でのイベント開催、動画配信とか、新たな日常やデジタル化に対応して国民の理解の増進を図っていくということがあげられております。

8ページ目の5番目です。生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化です。持続可能な食環境を維持するために、環境と調和のとれた食糧生産とその消費等にも配慮した食育を推進する必要があるということで、地産地消とか食品ロス、バイオマス利用と食品リサイクルの推進等についてあげております。

6番目、食文化の継承のための活動への支援等につきましては、伝統的な食文化を次世代に継承していくため、食育活動を通じて国民の理解を深めるべく、地域の多様な食文化を支える多様な関係者による活動の充実が必要とされております。農林水産省では、今、「うちの郷土料理」という名前で、各都道府県の郷土料理のデータベース化を行っているそうで、新潟県におかれましては、今年度中に郷土料理のデータベース化をするというお話をお伺いしております。

7番目の食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進です。現在、食に関するさまざまな情報があふれていまして、情報を得ることは簡単なのですけれども、その中から正しい情報、信頼できる情報を見極めること

	<p>が難しい状況があります。食に関する国内外の幅広い情報をSNS等の多様な手段で提供するとともに、教育機会の充実を図ることが必要とあげられております。</p> <p>今後、1月下旬には基本計画の本文案が示される予定となっております、パブリックコメントの募集がされる予定です。</p> <p>国の計画は幅広い分野を網羅した計画となっております、国の基本計画の中身の把握とか、足並みそろえたイベントはもちろん必須だと思うのですが、新潟市の食育推進計画は、本市の実情に合わせた、特徴を生かした計画として策定していきたいと考えております。</p> <p>以上で、議事（1）についての説明を終わります。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの国の基本的考え方や骨子案につきまして、ご意見、ご質問、疑問点などがあれば伺いたいと思います。</p> <p>先ほど事務局からあったのですが、国の方からも意見があれば出してほしいということで問い合わせがきているということですので、この場で、委員の方々からの意見も含めて、国の方に対して、意見をお伝えしていただきたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>特にないようでしたら、今、国の計画の説明がありまして、3月の交付に向けて策定を進めているということなののですが、本市におきましても、国の方向性を鑑みながらも、新潟市の特色を生かした計画ということで策定を進めていかなければいけないと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>議事（2）に移ります。議事（2）と（3）を合わせてご説明をいただいたあとに意見交換を行いたいと思います。議事（2）第4次新潟市食育推進計画策定スケジュールと（3）次期計画方針について、合わせて事務局よりご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3をご覧ください。第4次新潟市食育推進計画策定に向けた検討スケジュールについてお話をさせていただきます。前回の会議でもお示しさせていただきましたが、再度、改めてご説明させていただきます。今後、適宜修正を加えながら変更していく可能性もありますので、ご了承いただきたいと思います。</p> <p>今年度は第3回目の会議を3月に予定しておりますが、今日皆様からいただいたご意見を参考にしながら、計画素案や数値指標、市民アンケート項目の案を作成しまして、次回検討させていただきたいと思います。</p> <p>令和3年度、来年度に入りましたら、第3次計画の最終評価のための市民アンケートを実施いたします。当初は第4次計画の現状把握もこの市民アンケートで兼ねる予定でございましたが、前回ご意見をいただきましたように、20歳以上の全年代の市民への無作為抽出での郵送調査ですと、本計画で若い世代を食育の政策のターゲットとしているにもかかわらず、20歳代、30歳代からの回答数が少なく実態がなかなか見えていないのではないかとのご意見もありましたが、そういった課題がありますので、アンケートの対象や方法については、実態がきちんと把握できるような方法での実施を検討してまいりたいと思います。</p> <p>アンケート実施後、1回目と2回目の会議で第3次計画の最終評価、そして第4次計画を検討しまして、そのあと12月くらいにパブリックコメントを実施しまして、3回</p>

目の会議でパブリックコメントの結果を踏まえた計画の最終案を検討して、その後に議会へ報告、市長への答申を経て、3月中に新計画を公表し、令和4年4月から第4次新潟市食育推進計画が開始となる流れとなります。

裏面に今の内容を図でお示しさせていただいております、大まかではありますが、食育推進会議の〇がついている時期に委員の皆様にお集まりいただきまして検討願いたいというスケジュールとなります。また、食育推進会議だけではなくて、庁内の関係課とも別途意見交換を行いながら、縦割りにならないように市全体で食育への共通認識を持って計画の策定と推進を図ってまいりたいと考えております。

続いて、議事(3)の次期計画方針についてとなりますが、資料4をご覧ください。第4次新潟市食育推進計画の骨子の構成案となります。今後、詳細が具体的に決定していくにしたがって計画を作成していきます。内容としては、第1次から第3次計画までと同様ですが、第1章で食育推進計画の概要、第2章で新潟市の現状と課題、第3章で第4次計画の詳細、第4章で施策の展開、第5章で推進体制をお示ししていく方向で考えております。

続いて資料5-1です。第4次新潟市食育推進計画の方向性検討の資料です。まず、市の現状というところで、前回の会議でも数値については見ていただきましたが、今の第3次計画の中の四つの目標です、「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」に沿って、指標の現状値について、抜粋して再確認をさせていただきたいと思っております。

まず1番目の『健康や環境に配慮しながら、自らの食を「えらぶ」ことができる』という目標です。5番の食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断することができる市民の割合の20・30歳代の項目以外は目標未達成となっております。下にグラフでお示ししておりますが、食への関心度、生活習慣病予防や改善を意識した食生活の実践度、次ページが地産地消の実践度、食品選択等の判断という項目において、いずれも全年代の中で、20歳代が最も低いという結果となっております。先ほど、スケジュールのご説明のときにもアンケートにおいて若い方からの回答数が少ないというお話をいたしました。アンケートにご回答くださる方は、比較的興味のある方なのかなと推測されるものの、その中でも20歳代の4人に一人は食に関心がないという結果になっており、まずは、いかにして食に関心を持ってもらうかということが重要になってくると考えております。

続いて2番、『食文化を受け継ぎながら、自ら「つくる」ことができる』という目標についてです。伝統的な料理や作法について、20歳代や30歳代は大切だという意識はあるものの、受け継いでいるという方は半数以下となっております。核家族化もありまして、受け継ぐ機会が減少するという環境も要因として考えられます。

3番『生涯にわたって健康で楽しく「たべる」ことができる』という目標においては、12番の「ゆっくりよく噛んで味わって食べる市民の割合」という項目以外は目標に達していません。主食、主菜、副菜のそろった食事や朝食の欠食については、若い世代に課題が大きく残ります。下のグラフのところにも示してありますが、20歳代の朝食を毎日食べると回答した人は64.7パーセントにとどまっております。30歳代では、四角で囲んでありますが、17.4パーセントの方が朝食をほとんど食べないという回答になって

おります。第3次計画の最終評価の際には、実践できない背景とか理由の把握も必要だと考えておりますが、過去の調査等では、時間がないので実践できないという回答も多くみられております。時間がない中で、食への関心、食に対する時間を割いてもらうために、生活の中でいかにして食に関する優先度を上げてもらうかが重要になります。また、資料1の国の資料にも載っているのですけれども、子どもの頃の基本的な生活習慣、食習慣の形成が大人になってからの生活にも影響を及ぼすということも方向として視野に入れなくてはならないと考えております。

続いて、4番「にいがたの誇る豊かな食と農の体験を通して生きる力を『育てる』」という目標におきましては、農林漁業体験を経験した市民という項目では、30歳代、40歳代が最も高くなっております。やはり保育園や幼稚園、小学校等において、子どものときに経験する機会を得ているためと考えられます。農林漁業体験をとおしまして、地産地消や持続可能な食への意識向上へもつながるとともに、食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、生産者のさまざまな活動に支えられていることの理解を深めるうえでも、農林漁業体験は重要であると考えております。

こういった市の現状を踏まえまして、最後のページです。新潟市の食育推進条例におきまして、あらゆる世代の中で特に子どもたちに対して食育を積極的に取り組まれることと明記されております。今後の施策の主な対象としては、食への関心が低く、さまざまな課題が多く残っている子育て世代、これから親になっていく世代を重点として施策に取り組むことで、その本人だけではなく、その子どもの食育にも波及できると考えております。

次に、第4次計画の基本理念として、食へ無関心な人、食に割く時間がないという人に対して、本市の課題を解決していくために、まずは食を楽しむことを前提、入口としまして、食の楽しさ、食の大切さを楽しく知ることから関心につなげていきまして、「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」という実践に移行していくという考えの下、簡潔で分かりやすい理念やスローガンを設定して、新潟市が目指している食育はこれだということが市民の方にも明確につながるような計画づくりを進めていきたいと考えております。

続いて資料5-2です。こちらは8月6日に実施しました第1回会議で皆様からいただいたご意見をまとめたものとなっております。とても的確で参考になるご意見をたくさんいただきましたので、参考に付けさせていただきます。

資料5-1や5-2を踏まえまして、それを1枚にまとめたものが次の資料6のフロー図です。

食をめぐる現状・課題ですが、国でも新潟市でも、食をめぐる課題は多岐にわたります。さまざまな分野を視野に入れつつも、前回の会議でもご意見をいただいたように、この中で新潟市として重点的に取り組まなければならないことは何かという重点課題の洗い出しも、委員の皆様や関係部署等からもご意見をいただきながら、集約、整理して進めていきたいと思っております。

今後取り入れていきたい視点としましては、子どもの頃からの規則正しい食や生活習慣です。なぜそうすべきなのか、実践するとどのような影響があるのかという動機やエ

ビデンスを踏まえながら、取り組んでいきたいと思います。また、新しい生活様式もそうですが、今、家庭での食事の機会の増加やデジタル化ということもありますので、そういうことも視点に取り入れていきます。あと、共働き世帯が増加しているということから、男性の家事参加であったり、限りがある中での時間の使い方等も視点として入れていきたいと思います。

そして、委員の皆さんからご意見をいただきたいところなのですが、ターゲットとする子育て世代や若い世代への施策を考えたときに、大学生や企業との連携、企業に勤めている人自身の食育に対しては必要不可欠となっております。こども食堂とも、現在、食育に関しては関わりが持っていないため、今後の検討として視野に入れていきたいと思っておりますが、大学や企業、こども食堂との連携についても視点に入れながらご意見をいただけたらと思います。当課も、今年度より新潟大学の学生と意見交換を行う機会がありまして、学生の食に対するさまざまな声を聞かせていただいて、大変参考になっております。今後は、学生主体の企画で郷土料理教室の実施に協力したり、当課は複数の学校の学生をつないだレシピ作成に協力をしてもらったりと、取組みを進め始めたところですが、また、食品ロス削減を目的に今年度初開催いたしました、にいがたエコレシピコンテストや、エコレシピの料理見本展示、レシピ配布等では、イオンリテール様やJA新潟市様にもご協力いただいて実施いたしました。

やはり施策を効果的に進めていくためには、行政だけではなく、地域のさまざまな組織と連携を取っていくことが重要であり、委員の皆様の幅広いお立場からご意見をいただけたらと思います。

こういった現状の中、今後取り入れていきたい視点がありますが、資料5でもお話したように、現時点では特に20歳代等の若い世代において食の課題が多く見られております。根本的な、食に関心がないという問題を解決するために、まずは食を楽しむことを入口として取り組んでいきたいと思います。施策を実施するときも、前提として「楽しい」をキーワードとして取り組んでいきたいと考えております。

指標につきましては、第3次計画では20指標を設定しておりますが、項目を絞って、「新潟市の食育」が目指すべき姿の明確化を図ります。施策の主な対象としては、切れ目のない食育の推進を目指し、食の選択や時間の使い方等で自立し始める高校生以降にも目を向けて、実態把握を考えたほうがいいのかと考えているところです。

基本目標については、行動提案の前に、まずは関心を持って「楽しいな」という感想から行動につながっていくかと、まだ具体性はないのですが、これから練っていききたいところです。

これらの目標や指標を施策として、目指すべきところが、第4次計画の理念でもあります「食を楽しむ」ということを入り口に、楽しみながら食への関心を高めてもらうということにつながりまして、そこから食育推進条例の目的である市民一人ひとりが生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む、いきいきと暮らせる活力ある住みよいまち“新潟”の実現という目的につながるよう、流れとして考えております。

続いて資料7です。クリップ止めしてあるもので分厚くなっておりまして申し訳ないのですが、前回の会議でいくつかご質問をいただきましたが、第3次計画の指標

	<p>がどの調査に基づいて評価がなされているか、まとめたものとなります。評価に対してのご説明が不足しておりましたので、改めて今回の資料として抜粋して添付させていただきました。ほとんどがホームページ等で公表されているものにはなるのですが、報告書などをすべて添付しますとかなりの量になってしまいますので、必要箇所を抜粋したものとなります。</p> <p>少し見づらいのですが、各指標の一番右側に「数値調査方法」という欄がありますが、そこに①から④までの数字がふってあります。その隣、問何番なのか、何の調査の問何番でこの指標になっているのかということをもとめたものとなりますが、裏面を見ていただきますと、評価にかかわる調査等ということで、①から④まで、それぞれの調査名や対象等が記載してあります。次ページ以降に①から順に結果の内容や調査票などを添付させていただきましたので、必要に応じてご覧いただければと思います。</p> <p>下に参考と書いてありますが、前回、国の欠食率の把握効果についてご質問いただきました。市の朝食欠食率は、④新潟市生活学習意識調査という調査におきまして、市内の小中学生を対象とした調査で、約5万1,000人の中で、朝食をほとんど食べていないと回答した人の割合を評価として用いています。目標ゼロパーセントのところ、最新値で1.6パーセントという数値になっております。国では、全国学力学習状況調査という調査におきまして、全国の小学校6年生を対象とした調査で、全国で約100万人のデータで、朝食を毎日食べていますかという問いに対して、あまりしていない、まったくしていないと回答した割合を用いております。国の数字では、最新値は4.6パーセントとなっております。ちなみに、国の調査には新潟市のみの結果も出されておきまして、国と同じ調査の判定では、新潟市は6,245人のデータによりまして、欠食率2.7パーセント、国の4.6パーセントに対して新潟市2.7パーセントという数値になっております。</p> <p>このように、第4次計画指標を検討していく上で、調査の対象や質問の仕方などによって大きく数字や意味も変わってきますので、その辺をご意見いただきながら検討していきたいと思っております。</p> <p>資料3から、ざっと一方的に説明させていただきましたが、全体をとおしまして、特に資料5から資料7辺り、新潟市における重点課題や、「楽しむ」をキーワードとした基本理念、施策のメインターゲットであったり、企業、大学、こども食堂との連携についてなど、皆様から広くご意見をいただけたらと思っております。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>まず、資料3のスケジュールはよろしいでしょうか。</p> <p>資料4の骨子、構成案と資料5-1の方向性検討、5-2は前回の意見、資料6、方向性のフロー図、資料7を含めてご意見を伺いたいと思っております。</p> <p>今回、市からご提案をいただいた中に、基本理念として「楽しむ」ということをキーワードに入れてはどうかということや、特に、委員の方々、市の重点課題として何を挙げたらいいのかということ。そしてターゲットです。前回のご意見でももっと絞ったほうがいいという意見もありましたので、ターゲットについて。あとは先ほどの大学、企業、こども食堂との連携についてということで、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>どなたからでも結構ですので、よろしくお願ひいたします。</p>

佐藤委員	<p>医師会の佐藤です。</p> <p>質問なのですが、資料3で、市民アンケートの実施については今後検討して後ほど公開するという話を伺ったのですけれども、どういう形で私たちが知ることができるのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの市民アンケートについては、20歳以上の市民3,000人を単純に無作為抽出した市民アンケートとなっております。アンケート項目については、3月の会議の議題として出ささせていただいてご意見をいただこうと思いますが、この市民アンケートについては、第3次計画の最終評価のための市民アンケートとなっております。先ほど、若い世代対象のアンケートというお話もさせていただきましたが、こちらは、やはり子育て世代を食育のメインターゲットとするのであれば、もう少し子育て世代の実態等が見えるような調査方法にしたいと思っていますので、保育園とか保護者とか、教育委員会等をお願いして、小学校、もしくは高校生とか、食育のターゲットとする人たちの実態がもっと分かるようなアンケートにしなくてはいけないと思っていますが、まだ細かく決まっておりませんので、ご意見をいただきながら検討して考えていきたいと思っています。</p>
佐藤委員	<p>ありがとうございました。質問を聞いた意図としては、まさにおっしゃるとおりだと思いますので、今、ここに出ていたアンケートも、数字としては出てくるのだけれども、これが実態を表しているかというところかなり疑問があるところがあって、例えば、前回も質問をしましたが、朝食の欠食率について、では子どもたちに食べているかどうかと聞くと、90何パーセントが食べている。だけど、親の世代である20歳代、30歳代、40歳代は7、8割しか食べていない。この差は何なのかということは分かっていないのです。そこを、ただ単に食べているかどうかだけという質問だと、多分、わからないと思うのです。</p> <p>先ほど意見を言わなかったのですけれども、国の第4次推進基本計画の中でおっしゃる中でも、例えば朝食を欠食する国民に関する項目があるのですが、朝食を食べないということは、食事を食べていないだけではなくて、睡眠時間から、何時に寝ているか、何時に起きているか、これがすごく関係しているのです。その辺がわかるようなアンケートを作成できないかと思っていますので、ご検討ください。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。重要な基本的な考え方の部分となりますので、ぜひご意見をいただきたいと思います。</p> <p>和須津委員、いかがでしょうか。</p>
和須津委員	<p>先ほどの佐藤委員からのお話も一理あるということで、要は生活が、朝食を食べないということが、睡眠不足が原因ということが大きな問題になっていて、子どもたちが寝るのが遅くなる、塾もそうですし、夕食を食べる時間がそもそも遅いということが今すごく問題になっていまして、塾に行って夕食を食べる、学校が終わって塾をやったということで、食事の時間が昔とはまったく違ってきているということがとても問題視されてきていますので、そういったところにも少し重点的に考えをもっていくべきだということがあるのではないかと思います。</p>
会長	<p>新潟市の食の重点課題として、食事時間という観点も入れてはどうかということですが</p>

	ね。
和須津委員	そうですね。
会 長	ありがとうございます。ほかに、重点課題についてのご提案でもいいですし、「食を楽しむ」という基本理念のご提案についてでもいいですし、ターゲット層です。今、若い世代ということで、特に高校生から子育て世代をターゲットにしてはどうかというご提案ですが、それについて。あとは連携について。 村井委員、いかがですか。重点課題とか基本理念、ターゲット層、連携。
村井委員	いろいろあるので、少し整理させてください。
会 長	お隣、宮川委員、いかがでしょうか。
宮川委員	「楽しむ」ということが、なんとなく分かるようで分からないというか。少し、具体的なイメージとして、どうなれば楽しんでいるのかということ、アンケートを取るほうが明確にしておかないと、私は日々、学生や子どもたちを見ているのですけれども、価値観がさまざまなのです、特に今の子どもたちは。それぞれ楽しいと思っていることがばらばらなので、その辺りをどのように統一的に考えていくのかと、今のところその辺りが少し疑問に思います。
会 長	基本理念、食を楽しむということをどのように捉えられるのかということですね。
宮川委員	「楽しむ」というイメージを、どのようにイメージしていらっしゃるのかという辺りをお聞きできればと思います。
会 長	事務局からありますか。
事務局	まさに模索しているところではあるのですが、今回、国では食への摂取量や野菜の摂取量とかも新しく項目として追加しておりますが、特に食を楽しんで関心を持ってもらうところからすると、野菜を食べましょうとか、朝ごはんを食べましょうとか、そういったところで、まず実体験を加えながら、実際に体験して、今は新型コロナウイルス感染症の関係もあってお家で料理を作る方も増えているということなので、実際に自分で作って楽しむというか、そういった機会がもっとあればいいかと。例えば料理をしない人がもっと料理をするようになる、つながりとか、そういった実体験につながるようになるといいなと、本当にまだぼんやりで申し訳ないのですが、そういったようなイメージはしております。
宮川委員	今、若い人たち、ユーチューブとかSNSとか、そちらのほうにとっても関心が大きくて、食に関しても、私の身近にいる学生、子どもたちの姿を見ていると、ほとんどファストフードなのです。刺激的なもので、多分おいしいのだろうと思うのですが、そういう子どもたちに、野菜とか栄養とか、そういうところから入るのではとても膨大になってしまうので、そこのところを置いておいて、どこに視点を当てて、絞って、アンケートを取っていくのか。少しその辺を考えないと。理想としては大きいものがあると思うのですが、でも、今の20歳代の若い方たちの現状から考えると、私たち世代が考えるような理想的な食生活を求めることが、現段階では少し無理があると思います。
会 長	若い世代をターゲットとするということについてはいかがですか。

宮川委員	それもとても大切なことだと思います。このままでいくとどうなるのかという、それこそ生活習慣病とか、医療規模が膨大になったりとか、そこまでそれをやっていくのかと、若い人たちを見ているとそう思ってしまいます。
会 長	アプローチの仕方とか、そういう見解も必要。調査とともに、そういうことだと思います。 馬場委員、いかがでしょうか。
馬場委員	ターゲットについては、子育て中というのはすごく重要だと思っていますし、子育て世代私にとっても響くものがありますので、先ほどおっしゃっていたように睡眠時間が少なくて朝食を食べられないとか、塾の時間で孤食が進んでいるということは事実として私たちも受け止めていますけれども、共働き家庭も増えていますので、現状の生活を変えるということは、この世代は非常に難しいのではないかと考えています。その中でもどうしたらいいのかということ、少しでもレベルを落とさせていただかないと、どんどん上の理想にいくと、言われても、正直言ってあまり響かないというか、「できないんだよね」となってしまうような気がしますので、できればそこは少し考えていったほうがいいのではないかと考えております。
会 長	ありがとうございます。無理なことは難しいので、せめて楽しむというところから入りましょうという発想だと思うのですが、それについてはいかがでしょうか。
馬場委員	楽しむということに関しては、非常に重要だと思います。うちの子どもの給食ではないのですが、近隣の学校で、鬼滅の刃の給食をやられていた学校があったようで、非常にそれは私たちの間で話題になりまして、やはり、なかなか普段給食の話をしていない子どもたちが親御さんに話しているということを知っていますので、子どもにとっては、やはり楽しむことは重要だと。最近、給食も、皆さん、前より静かに食べていただいて、驚くほど食べることに興味を失っていることを実感しています。やはり給食を食べるときにしゃべらないのはつまらないと言っていましたので、やはり楽しむことは大事ではないかと思っています。
会 長	ありがとうございます。 長谷川委員、お願いできますか。ターゲットの話と、基本理念の「楽しむ」という話と、普段気になっている食に関する課題があるようでしたらお願いします
長谷川委員	ターゲットは、今の子育て世代とか、若い世代でいいと思います。 楽しむということはやはり非常に大事だと思うのですが、楽しむということを含めまして、簡単に、面倒くさいことをしないで簡単に朝食がとれるということをもう少し出したほうがいいのではないかと考えています。 私も学生を見ているのですが、食べることの重要性ということをよく知らない。食べるということはどういうことかということ、食事は一日2回食べればいいのか、エネルギーを内に取り込んでいければ、とればいいのか、3回食べるということがまだみんな分かっていない人が結構いるような気がします、いろいろな世代で。ですから、一日3回食べる、特に朝食を食べることがすごく重要だということをもっと分かりやすく、そうすることが将来のあなたにとって得になる。それから、お母さん方は子どもたちにとって自分は食べない人もいます、忙しいとか。でも、それはやはり一緒に食べれ

	<p>ばいいので、難しく考えている人が結構多いと思います。私の周りにもそういう人がいます。</p> <p>本当に、簡単に、食べることをちゃんと教えてあげて、どうして食べなければいけないのかということ、若いときに食べていないと 40、50 歳代になって生活習慣病になる。そういうデータも出ていますので、そういうことを本当に分かりやすく、食べることが自分を健康にするし、周りもよくなるし、そして医療費の削減にもなるしというようにもっていけるようなものがあると、難しいというか、前回から参加させてもらってこんなことを言うのは申し訳ないのですが、皆さんおっしゃるようにファジーなのだと思うのです、意味合い、言葉自体。もう少しそれが分かるような感じで考えてもらいたいと。</p> <p>先ほど佐藤先生がおっしゃった睡眠に関する調査は、本当に食につながっているので、すべてにおいて、そういう質問者に対してこういうことをやるといいのかなと。そういう形でもっていくとすごく分かりやすく、いいのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。そうすると、ターゲット、理念はいいけれども、ポイントは、重要性と、簡単だということをいかに伝えるかということですね。</p> <p>真保委員、いかがですか。</p>
真保委員	<p>ターゲットに関しては、私も賛成、大丈夫だと思います。</p> <p>基本目標というところで、「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」とありますが、これが、みんな、他人事というか、自分事として捉えられるような、そういった具体的なところが必要なのではないかと思います。私たちの世代、私は本当に食べることが大好きで、私の周りも食べることはとても大事、食べ物は大事だよねということをお互いに話し合いながら結構育ってきたのですけれども、今、障がいを持っている方たちと一緒に仕事をされていて、そのうち、20 歳代から 50 歳代のさまざまな世代の人たち、もちろん男女、いろいろいらっしゃるのですけれども、そういう人たちとお昼と一緒に食べることが非常に多い、毎日そうなのですけれども、彼らは 8 割程度の方が精神病を患っていて、食べ物が非常に、体になるちゃんとしたものを食べていない、そういった中で、農業者として私も一緒にやっているとできることは一緒に、それこそ、野菜を育てたりハムを作ったりしているのですけれども、それらを安くして提供する。大人に対する、親なのですけれども、焼き芋を作って食べてもらう、昔ながらのそういった体験とか、そういったものであったりとか、いちじくが成っているものをみんなで食べましようとか、そういったところが、まったく、育てているものに関して関心の対象がなかった。それが、どんな味がするのか、どういったものになっていくのか、加工もしているのですが、まったく、自分事として捉えていないと感じたので、そういったところから、食べながら、これはこういう味がするんだ、じゃあうちの子にも食べさせてあげたいとか、そういったことを培っていけるというところで、「つくる」「たべる」「育てる」というところにつながっていくのではないかと、漠然とですが私の中では感じております。そういったところも具体的にアンケートの中にあたりとか、こういった計画の中で示していければ、皆さんに伝わりやすいのではないかと感じております。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。視点をどうするかということですね。市民目線で、一人ひと</p>

	<p>りの立場から見た目標であったり指標であったり、アンケートの中身であったりというご提案です。ありがとうございます。</p> <p>佐藤委員、先ほどご意見をいただきましたので、猪俣委員。保育園のお立場でお願いします。</p>
猪俣委員	<p>食育の推進は非常に重要だというところで、私どもの保育のよりどころとなっております。保育士も保育指針であったり、認定こども園であれば、認定こども園保育教育要領の中でも、食育の推進ということが、前回の改定、今回の改定版を見ると、より内容が充実されております。それだけ、新潟の子どもばかりでなくて、全国の子どもたちに食育が必要なのだというところが強調されていると思っております。</p> <p>毎日、目の前の子どもたちを見ていますと、お腹が空くというところのそういうリズムが、やはり取りにくいのかということで、何年か前にもやったのですが、今回も、今年度に入ってから何回か、お腹が空いたら給食を食べようねといって、遊び続けていて、自分でお腹が空いたら、給食の用意をしてあるところに、好きな場所で食べていいよということで、そこに調理員さんがいて、食べに来た子どもに、「いっぱい食べる?」、「少なく食べる?」とか言いながら、配膳をしながら食べているのですが、12時50分になっても遊び続けていて、13時になっても遊び続けていて、どんどん、これは食べさせないと困るぞということで、「そろそろ食べようよ」、でも「お腹が空かないからおやつまでいい」とかと言う子が何人かいて、いや、これは困ったというところで、毎年、私どもの園ではアンケートを年度末になって取っていただいて、生活、何時に寝ていますかとか何時に起きていますかというところを毎年取り続けているのですが、やはり、年々、寝る時間が遅くなったり、朝起きる時間も全体には遅くなってきています。これが、みんながみんなというわけではないのですが、それで朝食は、登園の途中の車の中でチョコパンを食べてきたりとか、口の周りにチョコが付いている、「今日、おいしいの食べてきたね」、「チョコパン食べてきたんだ」、「半分食べたんだ」とか。それとポカリスエットとか。離乳食に少しずつ移行している赤ちゃんでも、朝、何を食べてきたかということをノートでやり取りをしているので、離乳食が始まったばかりの赤ちゃんで、朝食食べてきたものがミカンだけとか。</p> <p>本当に、多分、子どもたちはお腹が空かないまま園に来てというところとか、あとは保護者の方は今本当に情報量がとてもたくさんありますし、いろいろなことを知っているのです。ただ、それが実践に移せなかったり、朝のぼたぼたの中で、子どもたちは寝ていたほうがいいのかということで、あえて時間になっても起こさないでぎりぎりまで寝ているという生活リズム自体が崩れているかと思っております。</p> <p>今、やはり早急に、子どもたちを変えていかなければ、先ほど宮川委員がおっしゃっていましたが、大変なことになると。また、この子たちが親になったら同じようなことをまたやっていくのかと思うので、ただ、私どもも簡単にとかいうこともいろいろ提案をしているのですが、保育園で給食を食べているからいいやというような考えの方も多くいらっしゃいます。そういうところを考えますと、やはりその重要性をしっかり理解してもらわないと難しいと考えます。昨年度から中学生の家庭科の時間ということで、近くの中学3年生が園に来まして、子どもたちの様子を見て、1時間で終わって</p>

	<p>猛ダッシュで中学に帰るのですが、そういうところでも、私たち、少しずつ、「食べることは大事なんだよ」とか、「この子たちはまだ小さいから手づかみで食べるんだけど、それってとっても大事なんだよ」というような話を、少しずつ中学生にもしていかなければならないというところで話をしております。</p> <p>ただ、今回、このコロナ禍の状況で、私ども、ずっと高校でやっていたのが一日パパ先生、ママ先生で、一日一組で9時から16時まで一緒に生活してもらう中で、給食を食べる様子とかおやつの様子とかを見ていただいて、その時にいろいろな話をしたりして、1対1でいろいろな話ができる機会があってとてもよかったのですが、このコロナ禍でそういうことができないものですから、今、写真でいっぱいいっぱいドキュメンテーションということで、子どもたちが食べる様子を配信しているという状況でございます。</p> <p>やはり、ターゲットというところでは、私のほうでも、やはり目の前の子どもたちを何とか健やかに、生活リズムがきちんとできてお腹が空く子どもたちに育ててほしいと思っております。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございます。委員の皆様からも、重点課題、気になることとしては、3食食べるとか、その裏には生活リズム、そういうお話は結構出てきたかと思えます。</p> <p>伊佐委員、いかがでしょうか。</p>
<p>伊佐委員</p>	<p>ターゲットに関して言うと、多分、全体に対してできることをまず考えなければいけないのだろうと思っています。そういう意味で言うと、若い世代、20代と書いてあるので20歳から29歳ということなのかもしれないですけども、影響力を未来も含めた形で考えた場合、年代で分けることでもないという気がするのです。例えば、子どもさんがおられるという話でいうと、本人だけではなくて、子どもに対する影響力ということがありますので、多分、全体をよくするという話になると集中できないので、やはりターゲットは明確にして、それは影響力が未来も含めてある人を選ぶという形にすればいいのだろうと思っています。</p> <p>選んだターゲットが、仮に、例えば食事を楽しんでいなかったり、非常に問題がある食生活のようなことをしているのであれば、その原因は何かということは何らかの形で明確にしていかななくてははいけない。それが、いろいろな所のアンケートから抽出して、仮に、間違っているでもいいから、そのターゲットの人たちは、こういうことがあるから、こういうことをしているのだという話を、だれが決めるかという問題もあるのですけれども、結論付けしてしまったほうがいいと思います。そうしないと、こういう問題があるから、ではこういう提案ですという形が出ないのです。</p> <p>ここに書いてあること、皆さんが言っておられることはとても正しいことだとは思いますが、具体的な打ち手が出てこないのです。みんな聞いていて「ああそうだよね」とは思うのですが、打ち手が出ないので、ターゲットを明確にして、そのターゲットは未来も含めた形で、この新潟市に住んでおられる方に対して影響力が非常にある人を選ぶ。その人たちの、いわゆる食育に関する問題点というのは何なのかということも明確にして、それに対して具体的な打ち手を、「こうしようぜ」という形を考えていったらいいのかと思います。</p>

	<p>それから、先ほどコロナ禍の話が出たのですけれども、やはりそこは絶対に考えないといけなくて、コロナ禍というのは、これからどうなるか分からないので、今の段階で、現状のコロナ禍に対してであればこうだということが変わってくる可能性があるので、それも少し頭の中に入れておかないと、多分、新型コロナウイルス感染症が問題になって、約 10 か月くらい前からでしょうか、そこからどんどん実は変わっていて、僕らのお店の対応もどんどん実は進化していつているのです。これからもどんどん変容してくのだろうと思っていますから、それは結論は出ないのですけれども、少しそこも頭に入れておかないといけないと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。 村井委員、いかがですか。</p>
村井委員	<p>後出しじゃんけんのように申し訳ありません。 今お話をお伺いして、本当にそうだなと思っています。確かに新型コロナウイルス感染症の影響で、食に関しての状況は相当変わったと思いますし、今も変わりつつあるように思います。 先日、クックパッドの広報関係の方のお話をお伺いすることがあって、今のお話を聞いていると、食に関心が薄くなっているというところがあるのですが、逆に、クックパッドでは、食に対しての話がものすごく増えているというデータが出ていまして、昨年までは 5,000 万人の利用者が、現在は 6,100 万人、ピーク時で 7,000 万人に増えた。その際に、クックパッドの場合は当然レシピを検索するわけですが、検索するレシピの検索キーワードが、それまでの「簡単」というキーワードから「シンプル」というキーワードに変わってきたとおっしゃっていました。要するに、家の中で、いかに時間を短縮しながら、なおかつおいしいお料理をどうやったら作れるのだろうというニーズがものすごく高くなっている。もう一つは、お菓子に関するキーワードが増えた。これは、家庭の中で、巣ごもりしていますから、その中で子どもたちと一緒にお菓子を作る。例えばお父さんが子どもたちと一緒にお菓子を作る。そういう動きがかなり出ている。これは日本だけにとどまらず、74 か国でクックパッドを展開しているそうなのですが、世界的に同じ傾向が出ているとおっしゃっていました。 やはり、いわゆる食育という分野で行政として大きく網をかけていこうとすると、どこにターゲットという部分もあるのですが、ターゲットと同時に、どういう調べ方をするのか。今、SNSとかそういったネットの動きは非常に早く動いていますので、その部分をどう取り込んでいくのかということが 1 つ、このお話を聞いて非常に興味がありましたところ。 もう 1 つ、食育推進の中で、大学や企業、こども食堂との連携ということが出ているのですが、先ほどおっしゃっていた食を楽しく食べるという部分では、このコロナ禍の中で、フードバンクへの食糧支援の申し出が非常に増えております。今年が新潟のフードバンク新潟が扱っている食材、重量ベースで 42 万 2 トンくらいに今なっていて、昨日、新たに野菜等を保存するための倉庫を 1 軒無料でお貸しいただいて、それを西区のところに今納めております。 そういうこども食堂あるいはフードバンクといったところが、今、コロナ禍の中でさ</p>

	<p>まざまな方たちの支援を行っている中で、いろいろな情報を吸収できる一つの大きな窓口になりつつあると感じていまして、先週の土曜日は母子連合会でも、福祉連合会で食材の提供をさせていただきましたけれども、100世帯くらいの方々に2.5トンくらいでしょうか、食材を提供させていただいています。そういう中で、例えば子ども食堂がこのコロナ禍で活動ができなくなってお弁当を配るという活動をしているところがあるのですが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてからの話になるのかもしれませんが、子ども食堂を、例えばアンケート先の、どのような状況なのかということを知るためのアンケート先の相手としても考えてもいいのではないかと思います。大学とか企業関係との連携をうまく取れる方法がここにあるのかと思っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、重点課題としては、3食食べるということとともに、作るという側面です、そこを楽しむということの意見で、作るという視点も入れてはどうかということであったり、連携については、やはり意味があるのではないかと思います。</p>
伊佐委員	<p>少しいいでしょうか。</p>
会 長	<p>伊佐委員、お願いします。</p>
伊佐委員	<p>コロナ禍にあって、これからどう転ぶか分からないと言いながらも、たしかに今、コロナ禍にあって家の時間が増えているのです。料理する時間が増えているのです。そうなるとうどうなるかという、どちらかという、昼食のようなものがどんどん実は忙しくて増えていたのが、素材系に変わってきているのです。要するに、実はデリカがもう売れなくなってきているのです。売れなくなっているというわけではないのですけれども、そこがどんどん下がってきていて。素材が売れ出しているから、素材を買って、では何を作るのかという話になっているのだらうと思います。ですから、これからどうなるかまだ分からないので、ただ、チャンスはチャンスなのです。</p> <p>それから、これは新潟市ということなので、新潟はやはり農産物とか、そういう意味で生産現場なので、いかに新潟のものをおいしく健康に食べるかという楽しさというのは、絶対これは盛り込んだほうがいいと思います。</p> <p>あまり若い人の話では言えないのですが、新潟の方は新潟のことが大好きなので、そこのところはしっかり押さえたほうがいいのだらうと思います。ですから、先ほど、何でもかんでもやろうと思っただけではできないですから、基本的には集中させたほうがいいので、ターゲットを決めたほうがいいと思っていますので、ですから、そこの人たちの問題点を重視して、何とか、新潟の食材を使いながら食育ができるような形の方向に持っていくにはどうしたらいいのか。なぜ彼ら、彼女たちは、それをやっていないのかというところを明確にして、そこをつぶすという方法が一番現実的ではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。具体的なイメージができてました。新潟の食材をおいしく楽しく食べる、しかも作って食べるということですね。あるいは3食食べるということについて、若い人たちがなぜしていないのか。もっと言うと、仮説を作って検証してはということですね。</p>
伊佐委員	<p>そうですね。きれいな言葉で正しいことを言っても、行動につながらなければあ</p>

	<p>まり意味がない。</p>
会 長	<p>もう少し加えると、なぜ同じ若い人でも、やっている人もいて、やらない人もいたら、その違いはなぜなのかとか、そういう分析をして、課題を明確にしてやってはどうかというご提案をいただいたと思います。</p> <p>佐藤委員、お願いします。</p>
佐藤委員	<p>しつこいようですがアンケートなのですから、やはりアンケートで実態調査するというのはすごく大事だと思うので、今回提示されたのも、20歳代の人、1,000人の意向とか、30歳代の1,000人の意向よりは、家族50組がどういう生活をしているかのほうがずっと大事だと思うのです。ですから、アンケートを作るときに、ぜひ、単位は家族なので、家族の中で、みんな、お父さんお母さんが何時に帰ってきて、何時にご飯を食べて、子どもたちがどうしているかということが見えるようなアンケートができると、今のターゲット、20歳代、30歳代が中心になっているので、若い世代の家族がどのような生活をして、その中で食がどうなっているのかが分かるといいかと思います。アンケートにこだわるようだけれども、ぜひそういう形のアンケートを取ってもらえればいいかと思います。</p> <p>あと、皆さんおっしゃっているように、食を楽しむことです。ですから、村山さんも分かると思いますけれども、食塩がどうかとかそうではなくて、おいしいと感じるかどうかということが大事なので、そこを皆さんがどうしているかということが知りたいところです。猪俣先生がおっしゃったように、本当に子どもたちは腹減ったと言いません。家へ帰って腹減ったと言う子は少ないのです。お昼、お腹が空いたと言って食べる子はいないので、これは何なのだろうかということは知りたいところです。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。</p>
猪俣委員	<p>若い保護者の方はいろいろなことには興味があるのです。興味もあって、いろいろな情報も、自分たちなりに入れようと思っいろいろなことを努力しているのですが、その一歩がなかなか出にくいのかなと感じるような機会がとてもよくあります。</p> <p>昨年からお願しているのですが、JAさんは、お米を送ってくださって、ご飯茶碗くんといって、そこでおにぎりを作る活動をするのですが、毎年、年長さんの保護者全員が出席してくださるのです。親まで一緒におにぎり、まったく味のついていない白いご飯だけのおにぎりをお母さんと一緒に作ることで、おいしい、おいしいと言って食べるのです。ですから、その親御さんだけをターゲットとか、一部の人をターゲットにするのではなくて、いろいろな、関係できる機関との連携というところも併せて考えていく必要があると思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。今、ここまでで、基本理念について、「楽しい」というのは、ほぼ皆さんいいのではないかというご意見。</p> <p>そして重点課題はいろいろ出てきましたが、3食食べるとか生活リズム、新潟のものをおいしく食べる、あとは作るとか、そういったキーワードが出てきました。</p> <p>主なターゲット層としては、今、高校生から子育て世代までと提案をいただいたのですが、特に子育て世代の方にご意見を集中したいと思いますけれども、若い世代ということでのご意見だと思います。</p>

	<p>あと、連携についてもやはり重要ということでご意見をいただきましたので、ここまですべて一区切りということで、1回、事務局から資料7についてご説明いただき、指標について意見交換をしたいと思います。事務局より、ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>大変参考になるご意見、ありがとうございます。国からも第4次計画の目標が示されたところでありますが、新潟市の次期計画の指標について、またいろいろご意見をいただきたいと思います。</p> <p>資料7に、現時点の第3次計画の指標、20項目を記載してあります。この中で、現時点で目標を達成しているところは、5番の食品の安全性に関するところの20歳代、30歳代。あとは10番の食育の実践を促す事業の実施回数、12番のゆっくりよく噛んで味わって食べる市民の割合、17番の農業体験学習を実施している小学校の割合。20番は10番の再掲になりますが、料理教室等の実施回数となっておりますが、こちらが目標を達成した項目となっておりますが、それ以外は目標に達していないという現状となっております。</p> <p>第4次計画の指標を考えていくにあたって、現時点で目標を達しておらず、引き続き目指すべき指標を重点的に継続して推進すべき指標、あとは市民にも伝わりやすいように、項目を絞るために次期計画には引き継がない指標、あとは食を楽しむために新たに設定する指標となる指標の整理が必要かと思っております。</p> <p>前回の会議でもご意見をいただきましたが、同じ内容であったとしても、受け止め方や捉え方、質問の仕方一つでまったく意味が異なったものになってしまいますし、食育していますかとか、そういう聞き方では市民の方へは意味が伝わりづらい、課題だと思っておりますので、質問の仕方、聞き方等についても一市民としてのご意見もぜひ伺いできるとありがたいです。こういった項目はぜひ継続していくべきだとか、こういう項目は、実施回数とか、そういったアウトプットのようなものは引き継がなくいいのではないとか、指標に対するいろいろなご意見をいただきたいと思います。</p> <p>例えば、若い世代の方、食に関心のない方とかは、主食、主菜、副菜そろっていますかといっても、本当に一汁三菜のようなきっちりしたものでなくてもいいのですけれども、こういった聞かれ方をするとすごくハードルの高い、理想の高いものに感じ取ってしまうかと思っております。</p> <p>第4次計画の指標のためのアンケートが、先ほどお話したように対象の実態が分かるような方法で実施していきたいと考えておりますが、今ほどもご意見をいただいたように、なぜ実践できていないのかという原因がしっかり分かるような、把握もしていかなければいけないと思っておりますし、それにおいては、アンケートという形もありますけれども、インタビューをしてみたり、特定の対象を絞って、もっと原因の追究をしていくようにしていかなければならないと思ったところです。</p> <p>また、アンケートについても、紙のみではなく、ウェブ回答などを取り入れながら回答率の向上を図ったりということで、検討の余地があると思っておりますので、そういった調査についても何かご意見がありましたらお伺いできればと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。資料7をご覧いただき、この指標は要らないのではないとか、もっとこういう指標が必要なのではないかという辺りからご意見伺いたいと思いま</p>

	<p>す。あるいはアンケートの対象、集計方法等について気になるころがあれば、そういうこともいただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>前回、今後必要なデータ、食育計画がいいのではないかとのご意見があったように思いますので、第3次はかなり幅広いものなので、もう少し絞ってもいいかと考えております。皆様のご意見をお願いします。いかがでしょうか。</p> <p>ある意味、目標が決まらないと、なかなか指標を決めるということは難しいかというか、それで、先ほど実は時間を予定より伸ばして、そちらの議論を先にしたほうが、課題とか目標設定につながるような議論に時間を割かせていただいたのですけれども。ご意見がありましたらお願いします。</p>
佐藤委員	いいでしょうか。
会 長	はい。お願いします。
佐藤委員	<p>子どもたちを現場で見ていると、例えばゆっくりよく噛んで食べていますかという質問をされて、これは目標を達成しているというけれども、子どもたちはゆっくり噛んでいないと思います。肥満の子どもたちですけれども、やはり聞いてみると、必ず食事中にお茶を飲んでますねといったら、ほぼ100パーセント麦茶なのです。流し込んでいるのです。噛まない。ですから、ゆっくり噛んで食べていますかと聞かれたら、ああそうかなと〇は付けるけれども、本当にそうかというのは、例えば食事中は家族みんなで食べていますとか、何分で食事をとっていますとか、テレビをつけていますとか、そういう実態のほうが、食べ方に一番影響しているのかと。実際に子どもたちのあごが小さくなったのは有名な話ですし、噛んでいないのは事実なので。小さい子ども、今、お母さんたちは食べさせることに一生懸命なのです。ですから、親は自分が食べないで一生懸命食べさせようとするのです。子どもに食べさせた後、自分はさっと食べてしまうのです。ですから、一緒に食べている母親が噛んでいるのを見ていると、子どもも同じように真似をするのだけれども、子どもは真似をするので、そういう育て方をしてほしいのですけれども、今は、一緒に食べる喜びよりも、親の箸は絶対使うとか言って、ミュータンス菌がうつるから使うとか指導されているので、おばあちゃんが使っているとすごく怒られてやったりしている。本当は一緒に食べたほうが楽しいし、親が噛んでいれば子どもも噛むようになるし。そういう、かんでいるかどうかではなく、食べ方の実態が分かるような、何度もしつこいですけれども、そういうアンケートのほうがいいかと思えます。</p> <p>目標をどういうふうに設定したらいいかというとは分からないのですが、やはり家族というものを基本に考えて、それができているかどうかということを考えてほうがいいかと思えます。</p>
会 長	意識になってしまったりするので、ゆっくりよく噛んで食べていますかと言われると、ですから、時間とか、明確に把握できる指標がいいのではないかといいことですね。
佐藤委員	はい。
会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>あと、先ほど佐藤委員がおっしゃっていたのは、対象に合った調査方法をしたほうがいいということで、シニアですとどうしても20歳以上になってしまうので、もし、高</p>

	<p>校生から大学生も含めて、大学で調査するとか、高校で調査するとかというほうがいいのではないかと。</p>
佐藤委員	<p>先ほどからコロナ禍という話が出ているのですが、個人的な意見として、摂食障害がすごく出ています。多分、新型コロナウイルス感染症の影響だと思うのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、僕のような町医者でも、高校生から、昔の感じでしたら大学生が来て、食べていないのです。食事はほとんどとらないとか。いろいろな要因があるのです。もっとひどいのは、市民病院で摂食障害の入院が増えているのです。今の若い世代、高校生から大学生の世代、食べていない子が多くて、報道されていますが、実際すごく増えていますし、自殺未遂を経験しているので、そういうことも疾病と関係あると思います。ですから、高校生や大学生の食行動というのはぜひ知りたいです。彼女たちはものすごく知識はあるので、例えば栄養素を知っていますから、炭水化物はとらないで痩せるとか、そういうことをやるのです。そういう知識が僕らとは全然違うのです、おいしいから食べるのではなくて、これとこれは悪いからとらないとかは選択できるので、どういう食行動をしているかということは知りたいです。</p>
会 長	<p>子育て世代をターゲットとするなら、乳幼児健診で。</p>
佐藤委員	<p>いいですね。</p>
会 長	<p>そういうことですね。</p>
佐藤委員	<p>はい、選択として。</p>
会 長	<p>市民アンケートだけではなくて、市民アンケートはそれはそれでいいのですが、プラス、包括的な世代の調査を加えてはどうかということです。ほかにはいかがでしょうか。</p>
宮川委員	<p>質問でもよろしいでしょうか。</p>
会 長	<p>はい、宮川委員、どうぞ。</p>
宮川委員	<p>指標が具体的な方向というような感じなのでしょうか。「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」という指標内容。</p>
事務局	<p>指標の内容も、まだこれは第3次のままで、第4次はこれから作ろうと思うので、特にまだ決まってはいません。</p>
宮川委員	<p>自分がアンケートされたらどうだろうと思って見ていたのですが、やはり食べ物を無駄にしないというのは、出されたものは残さず食べるとか、何か、分かりやすいものにしてはどうかと思ったのです。例えば7番の伝統的な料理や作法、これは選ぶのが二つあります。伝統的な料理が大切だと思っているけれども作法はどうかとか、選ぶのに、内容的にも二つあるということが少し答えにくいのではないかと思います。15番の朝食又は夕食、夕食は家族と一緒に食べているのだけれども朝食は一人だとか、いろいろな食べ方もあると思うので、できれば、単純な、質問の内容が一つになるようなものがないのではないかと思います。</p> <p>もう一つなのですが、対象なのですが、先ほど佐藤先生が家族単位と、それもとても大切だと思うのですが、もし可能であれば、例えば家族単位のアンケート、私はまだ学生を相手にしているものですから、一人暮らしは、ほとんど、5,000</p>

	<p>人くらいが一人暮らしなのですけれども、すごくその辺りが気になるので、一人暮らし対象のアンケート、そうすれば、もう 18 歳から 24、25 歳くらい、本当に若い世帯にターゲットが絞られるので、そのように、対象を少し別にして、アンケートの内容は同じにしても、少し分け方を考えて、ウェブと先ほどおっしゃっていたのですけれども、それも最後にお願ひしようと思ったのですけれども、やはり今の若い子たち、メール関係とかとても長けているので、若い子はすごく面倒くさがるのです。でも、パソコンでメール交換とか、そういうことは、アンケートなどでも取っているのですけれども、ぱぱっと、次々に順次移っていくようなものはそう嫌がらずにやるものですから、対象を分けて、そしてアンケートの仕方を少し変えると、回収率もよくなるのではないかと思いますし、私などはすごく歳なので記述式のほうがいいので、年配の家庭には、郵送でしょうか、記述式でお願ひするとか、そのように考えていったら、それぞれの年代の人が割合確実に返してくれるのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。たしかにウェブアンケートは楽ですね。答えるほうも楽ですし、集計もすぐできるので、そういう方法も取り入れていただければと思います。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。追加したほうがいい指標とか、これはもう要らないのではないかということでの意見はいかがでしょうか。</p> <p>先ほど基本理念のところ、「楽しむ」とか、おいしく楽しく作るとか食べるとか、そういうことを新潟のものとして入れるのであれば、それに合った指標が必要かと思ひますので、ご考慮願ひたいと思ひます。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。村井委員。</p>
村井委員	<p>課題のところ高齢者のフレイルが入っているのですが、これは、この食の中に高齢者を対象としては入れていらっしゃるのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの課題、食育のみではなくて、新潟市全体とか、広い範囲で食の課題と言われるものを広い意味合いで入れたものとなります。</p>
村井委員	<p>高齢者のフレイルは、栄養の問題とかがあるので、食育とも少しからんでくる。高齢化も進んでいますので、例えばこういうアンケートの中に高齢者を対象としたアンケートもあってもいいのではないかと思ひたものですからお聞きしました。ありがとうございます。</p>
伊佐委員	<p>先ほど佐藤さんも家族のところをしっかりと調査するべきという話を言われまして、そここのところ、本当に影響力が非常に高いのであれば、こういうアンケートではなくて、例えば 10 組の家族を設定して、徹底してそここのところを調べるという手もあるのではないかと思います。もちろん、その数が 10 組なので、信憑性はという話になるのかもしれないのですけれども、それこそ入り込んで、10 組のこういう家族で、その家族は新潟市の全体に対する影響力が高いというような家族構成や年齢構成を設定して、その人たちがなぜ、そういういろいろな問題が起こる原因とは何なのかということを入り込んで調べるということを行って、原因が何かということ、先ほどの話を聞きながら感じました。そういうことが可能、10 組くらいであれば可能ではないかという気がするのです。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。おっしゃっていることが非常によく分かるのです。先ほど事</p>

	<p>務局からも、インタビューで、できない原因が分かるようなインタビューも考えたいというような話があったのですが、まさに共通するところだと思うのです。事例から見えてくる課題はすごくいろいろな把握ができますし、いきなりアンケートにして外れるよりは、まずそこから、こういうことが原因なのではないかという仮説を作って調べたほうが、多分、量的に、確認したほうがいいかと思います。</p>
佐藤委員	<p>すごくいいのですけれども、そうなってくると、秘密保持とか何かで、多分、大学の倫理委員会などはおとりませんよね。</p>
会 長	<p>研究発表をするには必要なのですけれども、研究発表でなければ、行政上のものであればいいかと思います。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。いろいろなエリアで出していただければと思いますので、お願いします。</p>
馬場委員	<p>先ほどの10組の家族を選んでいくというのは、私も非常にいいと思っています。</p> <p>あと、何を食べているかということも必要だと思うのですけれども、実際には、蓋を開くと、それこそ、朝食に菓子パンとか、シリアルにオレンジジュースをかけているという話も聞いたりもしていますし、「はい」と「いいえ」だと、食べていますか、はい、となるのですけれども、やはり内容、中身が大事なのかと思うところがあるので、そこは、もしかしたら必要になるのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。追加のご意見など。</p> <p>和須津委員、お願いします。</p>
和須津委員	<p>逆の発想と言うかなのですけれども、10組くらい、それはそれで、用途として、目的を別なところに持っている、目的を持って調べることは、それはすごく効果的だと思います。</p> <p>市民アンケートとして、不特定多数、大勢に幅広くアンケートを取るのであれば、細分化したアンケート、「はい」と答えたのであればそれはどういう内容ですかとか、2段式、3段式のアンケート項目を作って、それに答えていくといったほうが、より中身の濃いものを得ることができる。どうせアンケートを取るのであれば、数が多い、集計が少し大変ですけれども、より多くの人たちからより細かい内容のアンケートが取れるような内容にしたほうが、より充実した答を得ることができるのではないかと思います。</p> <p>2段構え、3段構えの質問形式にしておくと、意外と、「こうだったらこうだね」、「こうだったらこうだね」という感じの答え方ができる。そうすると、自分自身も、どういった生活をしているかということが把握できてくるということも、その人の、自分自身の食生活を知ることにもつながっていくのではないかと思いますので、そういう形で調べることもまたいいのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。質問の仕方のご提案です。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。長谷川委員、いかがですか。指標、あるいはアンケート、調査方法について。</p>
長谷川委員	<p>皆さんおっしゃっているように、今までのアンケートを見させていただくと、原因が分からないので、多分皆さんがおっしゃっていることと同じだと思うのですけれども、原因が明らかになるような質問を意識したほうがいいと思います。やはり、すごくいい</p>

	<p>答えしか出てきませんよね。そして、本当にその原因が、どうしてそれがいけないのかということが分からないので、問題をしばってもいいと思いますし、あるいは、今までの項目にもあるのですけれども、原因が分かるような構成でアンケートを取るほうがいいと思います。あえて悪い、例えば「朝食を食べていますか」ではなくて「食べていませんか」とか、聞き方として、では食べていないのはどうしてですか、「朝眠いから」という人がいたりだとか、答えが出てくるようなアンケート、どうしたいと思いますかとか、そのように聞けると、本当に本人たちの気持ちが出るかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。指標を把握する目的とともに、アンケートの目的としては、その原因、できない原因が分かるような項目にしてはどうかということでした。ほかにいかがでしょうか。</p>
村井委員	<p>「えらぶ」というところの4番目、食べ物を無駄にしないよう行動している市民の割合というところなのですが、これは、食品ロスのほうでいけるのかと、設問のところを見ていると、買い過ぎない、作りすぎない、残さず食べる冷凍保存を活用する、賞味期限を過ぎてもすぐに捨てずに自分で食べられるか判断するなど、選ぶ内容が非常に多くて、どれが引っかけたらこれが「はい」になるのだろうと。とすれば、もう少し設問の仕方を、先ほどお話があったように、きちんとターゲットに対して分かりやすく、回答も明確になるような形にしていけないかと思いました。</p>
会 長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>それでは、時間にもなってまいりました。委員の方々からいただいたご意見を基に、今回の会議に向けて、数値指標、市民アンケート、次期計画の骨子などについて検討して、事務局は策定を進めていただければと思います。</p> <p>(4) その他について、委員の皆様より何かご報告事項などがございましたらお願いいたします。</p> <p>特にないようでしたら、本日、さまざまなご意見をいただきましてありがとうございます。本日の議事を終了したいと思います。事務局にお返しいたします。</p>
司 会	<p>村山会長、議事進行いただきましたありがとうございます。また、委員の皆様もご意見ありがとうございました。本当に具体的なお意見をいただきまして、なかなか今まで第3次まで見えなかったところ、第4次も明らかにしていくような、道筋が見えたような気がしております。</p> <p>連絡事項に移りたいと思います。3点ございます。</p> <p>1点目は、今回の会議の報酬についてです。こちらについては、前回同様、指定口座に後日振り込ませていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>2点目は、今回の会議の日程についてです。今回は、スケジュールでお示ししましたように3月を予定しております。本日の会議を踏まえて、ある程度形になったものがお示しできるのではないかと考えております。また日程調整等でご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>3点目、受付の際に出された駐車券ですけれども、無料処理をして受付のテーブルに置いてありますので、忘れずにお持ちいただきたいと思っております。</p> <p>以上をもちまして、令和2年度第2回食育推進会議を終了いたします。お忘れ物のな</p>

	いように、お気をつけてお帰りください。お忙しいところ、本当にありがとうございました。
--	--